

令和7年度 上越市立教育センター運営方針

<方針>

- 「子供の幸せを応援する」を事業の共通理念とし、一つ一つの取組の意義・目的を見失わず事業を運営する。
- 「上越市学校教育実践上の重点」を踏まえ、各学校の実情や要請に応える運営に努める。
- 上越教育大学及び各種の関係機関との密接な連携を図っていく。

<事業の概要>

- (1) 上越市のカリキュラム・マネジメントの考え方を生かした、学校課題を解決するスクール・マネジメントに役立つ研修の実施
- (2) 学校力の向上、指導力の向上を目指す計画的・実践的な研修の実施と学校の要請に応える訪問指導や助言
- (3) 教育DXを推進する ICT 機器利活用のための研究と研修の実施
- (4) 心の通った教育相談、不登校児童生徒への教育支援及び不登校への適切な対応を啓発する取組と研修
- (5) 資料の収集・整理と教材・教具や器材等の提供や貸出し

各事業の目的及び令和7年度の事業目標

(令和7年度予算要求資料、文教経済常任委員会資料に示した目的・目標)

1 教育研究事業 わくわくする学びの支援

【目的】

- ・教育大綱「わくわくを未来へ」のもと、上越市学校教育実践上の重点の達成を目指し、学校の教育力(学校力)・教師の指導力を高め、地域に信頼される特色ある学校づくりを支援し、教育の質の向上を図る。

【7年度目標】

- ・コミュニティ・スクールで学校と地域が連携・協働する上越市のカリキュラム・マネジメントの考え方を生かしたスクール・マネジメント研修を通して、各学校の教育力(学校力)を高め、学校が主体性を発揮した特色ある学校づくりを支援する。
- ・教職員の授業改善及び指導力のより一層の向上を図り、児童生徒一人一人の資質・能力の育成を目指した学校の実践を充実させるとともに、学校現場の課題に応じた学びの機会を提供し、学校の課題解決力を向上させる。
- ・児童生徒の情報活用能力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するため、市内教職員全体のICT活用技能の向上を図る。

2 教育相談事業 わくわくする心の醸成

【目的】

いじめや不登校などの悩みや困難を抱える児童生徒や保護者、対応に苦慮している教員に対し、教育相談や関係機関と連携を図った組織的な支援等を行い、悩みや困難の早期解決や軽減を図り、落ち着いた学校生活の実現や幸せの応援に寄与する。

【7年度目標】

- ・不登校児童生徒に個別指導や体験活動を行い、自立心と集団生活への適応能力を高め、学校復帰等に向けて支援し、一人一人の社会的自立を促す。あわせて、不登校を生まないための取組を推進する。
- ・児童生徒や保護者、教職員からのいじめや不登校などの相談に対し、学校訪問カウンセラーをはじめとする相談員による教育相談を実施し、相談員相互や学校問題解決支援プロジェクトチーム（以下「J A S T」という。）と連携を強化し、相談者の悩みの軽減と解消を早期に図る。
- ・学校だけでは解決が困難なケースについて、J A S T がチームとしての特性を発揮しながら、学校、家庭、関係機関等と連携を強化して支援を行うとともに、「J A S T 支援室 あすへ」での個別指導や教育相談をより充実させ、問題の早期解決につなげる。

3 教育センター管理運営事業

【目的】

- ・教育センター、理科教育センター、南・北教育相談所（子ども未来サポート CoCoMo 南・北）の施設と設備の適切な維持・管理及び事務処理を行い、各種事業を円滑に実施する。
- ・教育センター運営委員会及び企画委員会を設置し、円滑な運営を図る。

【7年度目標】

- ・児童生徒や保護者が安心して教育相談などを行ったり、教職員が充実して研修に取り組んだりできる、落ち着いた環境を実現する。
- ・運営委員会の助言を生かし、教職員の働き方改革も考慮した研修の重点化や効果的な実施を図るとともに、研修案内や情報提供を工夫し、校長会、教頭会等に働きかけ、教職員が主体的・計画的に研修に参加できるようにする。